

## 船舶事故調査報告書

平成24年1月19日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委 員 横 山 鐵 男（部会長）  
委 員 庄 司 邦 昭  
委 員 石 川 敏 行  
委 員 根 本 美 奈

事故種類	衝突（防砂堤）
発生日時	平成23年8月18日（木） 12時02分ごろ
発生場所	広島県三原市瀬戸田港向田地区 広島県尾道市に所在する高根島灯台から真方位101°2,100m付近 （概位 北緯34°19.8′ 東経133°06.0′）
事故調査の経過	平成23年8月22日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	旅客フェリー <sup>こううん</sup> 幸運丸、198.11トン 124561、有限会社三原海陸運輸 35.60m (Lr) × 8.60m × 2.99m、鋼 ディーゼル機関、661kW、昭和56年9月16日
乗組員等に関する情報	船長 男性 90歳 六級海技士（航海） 免 許 年 月 日 昭和28年6月19日 免 状 交 付 年 月 日 平成19年11月21日 免状有効期間満了日 平成24年12月9日
死傷者等	なし
損傷	本船 右舷中央部防舷材に擦過傷 防砂堤 欠損及び折損
事故の経過	本船は、船長ほか2人が乗り組み、乗客3人を乗せ、車両2台を搭載し、12時00分ごろ瀬戸田港向田地区の栈橋を後進で離れたのち、前進しながら左回頭して対地速力約3ノットで北西進を始めた頃、突風を受けて船体が北東方に圧流され、平成23年8月18日12時02分ごろ右舷側中央部の防舷材が防砂堤に接触した。 船長は、間もなく行きあしを止め、負傷者や損傷した車両がなく、衝突箇所及び航行に支障がないことを確認して運航を続けた。 船長は、翌19日に海上保安庁へ事故の発生を通報した。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 西南西、風力 4、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の末期
その他の事項	船長は、旅客フェリーの船長経験が約49年であり、安全統括管理者を兼務している。 瀬戸田港向田地区における本船の可航水域は、本事故当時、本船の長さの約2倍であった。

分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし あり 本船は、瀬戸田港向田地区の棧橋を離れ、前進しながら左回頭して北西進を始めた際、風で船体が圧流されたことから、右舷中央部が防砂堤先端に衝突したものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、瀬戸田港向田地区の棧橋を離れ、前進しながら左回頭して北西進を始めた際、風で船体が圧流されたため、右舷中央部が防砂堤先端に衝突したことにより発生したものと考えられる。	
参考	船舶所有者は、瀬戸田港向田地区の港内が狭いことから、可航水域を出来るだけ広く確保して操船の安全を高めるため、港内の掘り下げを中国旅客船協会連合会を通じて広島県へ毎年要望している。	